

# 静岡県で初めて、コミュニティ放送局と連携した親子電波教室を開催

東海総合通信局(局長 長塩 義樹)では、電波の適正な利用に関する周知・啓発活動の一環として、電波の仕組みや身近な電波の利用について関心をもってもらう電波の正しいルールについて学ぶことを目的に民間ボランティアによる親子電波教室を実施しています。

今回、令和3年3月14日(日)、ザザシティ浜松中央館(浜松市)において、静岡県電波適正利用推進員協議会、地元のコミュニティ放送局である浜松エフエム放送株式会社(FM Haro!)及び一般社団法人日本コミュニティ放送協会(JCBA)が共催し、小学校4年生から6年生までの親子10組の参加を得て親子電波教室を開催しました。

静岡県で初めてとなるコミュニティ放送局と連携した親子電波教室は、浜松エフエム放送が子供たちにFMラジオを製作した感想を取材・放送し、子供たちは自らが製作したFMラジオで自分がインタビューされた様子を聞くことができます。これにより電波を身近なものに感じてもらうことが期待されます。また、浜松エフエム放送のスタジオ見学もあり、どのような所から放送されているのか知ることもできました。

最初に電波の性質や電波がどのように利用されているかを分かり易く説明したDVDを視聴しました。視聴後、DVDの内容に関する三択クイズに答えることで子供達に電波に関する理解を深めてもらいました。

ラジオの製作では、半田ごてを使用するための注意事項(高温)をしっかり学んでから、推進員の皆さんのサポートにより、プリント基板にコンデンサや抵抗を半田付けにより取り付け、作業開始から1時間程度で完成させていました。

自分が組み立てたラジオから放送が流れると「とっても感動した」「半田付けが難しかったけど、推進員さんに助けてもらったから完成できた」との感想を聞くことができ、推進員としても有意義な活動となりました。

その後、浜松エフエム放送のアナウンサーから「コミュニティ放送の特徴と役割」と題して、コミュニティ放送は地域の話や行政、観光、交通等の地域の需要に応えたきめ細かな情報等を提供する地域密着型メディアであり、災害時には市役所から避難情報等を速やかに伝えることができるなど、豊かで安全な街づくりに貢献できる放送であることが説明されました。

浜松エフエム放送のスタジオ見学後、子供達全員に親子電波教室の修了証を授与し、完成したラジオを持って記念撮影を行い、楽しく過ごした3時間の親子電波教室は終わりました。



FMラジオの製作



浜松エフエム放送のインタビュー



コミュニティ放送の特徴と役割を説明



親子電波教室の修了後の記念撮影